学校番号	４０１

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「 書Ⅱ 」　（光村図書）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで学んだことを発展させて、篆書・隷書の書体を体験し、文字の歴史を理解しましょう。
・篆書の学習を生かし、我印（姓名印）を制作し、作品に押印することで作品としての形式が完成することを体験しましょう。
・様々な作品制作を通して、作品を作ることの楽しさ、他の人の作品を鑑賞することの楽しさを味わいましょう。
・書作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持つ。 大作を制作することで集中力を養い、達成感も味わう。何事にも主体的に取り組もうとする。	線のよさや美しさを感じとり、感性を働かせながら自らの意図に基づいて表現を工夫している。	隷書・篆書を学び、その技能を高め、表現の幅を広げている。	表現技能を高めることで鑑賞力も高める。
評価方法	観察 レポート ワークシート テスト	観察 鑑賞レポート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	隷書・篆書	隷書・篆書の用筆法の習得 「曹全碑」 「秦山刻石」の臨書 「鳥」「馬」創作	○		○	○	a:隷書・篆書の表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 c:起筆の逆筆、横画水平など篆隷の用筆法を身に付け表している。 d:創作作品の鑑賞会で他人の作品を鑑賞し、作品意図を汲み取る。	観察 提出作品
	篆刻	姓名印創作 八分四文字印 三分一文字印	○	○	○		a:完成までの手順を理解し、それぞれの過程を意欲的に取り組む。 b:印稿の段階で諦めず文字の配置を工夫する。刻す段階では線の切れを求める努力をする。 c:篆書の特徴を踏まえて完璧な印稿を書く。刀の当て方を理解し実践する。	観察 提出作品 レポート
2	横巻制作	5.4m の横巻に李白の漢詩「飲中八仙歌」154 文字の作品制作	○	○	○		a:紙の大きさ、文字数とも膨大な量になる。継続的に意欲を持って取り組む。 b:画数の多い文字の処理の仕方等、原則を理解したうえで工夫する。 c:筆先の弾力を使って行書らしく軽く書く表現法を身につける。	観察 提出作品 レポート
	一字創作	半紙に、自分にとって意味のある漢字一字の作品制作		○	○	○	b:墨色、筆法、線質等作品を作っている要素について理解し、複雑な線を目指して制作する。 c:蔵法、リズム、字形のデフォルメ等様々の要素を表現する。 d: 出来上がった作品の鑑賞会で他の人の工夫を感じ取る。	観察 提出作品 ワークシート 鑑賞レポート

3	漢字かな交じりの書の創作	カレンダー製作 色紙2枚(1～6 月で 1 枚、7～12 月で1枚)を制作し、自室に飾り、書のある生活を体験する	○	○		○	a:絵画的要素、彩色、配置等、主体的に制作する。 b:言葉の内容、筆使い、墨色等今まで学習してきたことを総動員して工夫する。制作過程も鑑賞し、工夫を共有する。 d:他の生徒の作品を鑑賞し、それぞれの工夫を感じ取る。	観察 提出作品 ワークシート テスト

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。